

重要文化財旧遷喬尋常小学校校舎
整備・活用基本構想



令和4年3月

岡山県真庭市

岡山県真庭市教育委員会

目 次

目 次

第1章 基本構想策定にあたって	3
1 基本構想策定の目的	3
2 基本構想の位置付け	3
3 検討の過程	4
4 検討委員会から構想までの流れ	4
第2章 旧遷喬尋常小学校校舎の現状と課題	6
1 旧遷喬尋常小学校校舎の現状	6
（1）旧遷喬尋常小学校校舎の概要	6
（2）旧遷喬尋常小学校校舎の価値	8
（3）運営管理及び防火・防犯対策の状況	8
（4）現状における校舎の利活用活動	9
2 旧遷喬尋常小学校校舎の課題	10
（1）活用上の課題	10
① 来場者の利便性	10
② 活用の担い手	10
（2）整備上の課題	11
① 建物の経年劣化	11
② 耐震対策	11
③ 防火・防犯対策	11
④ 復 原	11
⑤ 校舎周辺環境	12
3 住民及び来場者のニーズ	14
（1）住民のニーズ	14
（2）来場者のニーズ	15
第3章 旧遷喬尋常小学校校舎の整備・活用に係る基本方針	18
1 基本的な考え方	18
（1）文化財整備と活用の目的	18
（2）これからの活用の考え方	18
2 整備の基本方針	19
（1）根本的な修理及び耐震補強工事	19
（2）地震・防火・防犯への備え	19
（3）復原の考え方	19
（4）来場者利便性の向上	19

(5) 校舎周辺の環境整備	19
(6) その他	20
3 活用の基本方針	21
(1) 市民にとっての活用	21
(2) 観光客等の外からの視点による活用	21
(3) 持続的な活用	21
4 スケジュール及び概算費用	22
(1) スケジュール	22
(2) 概算費用	23
5 実現に向けて	23

第1章 基本構想策定にあたって

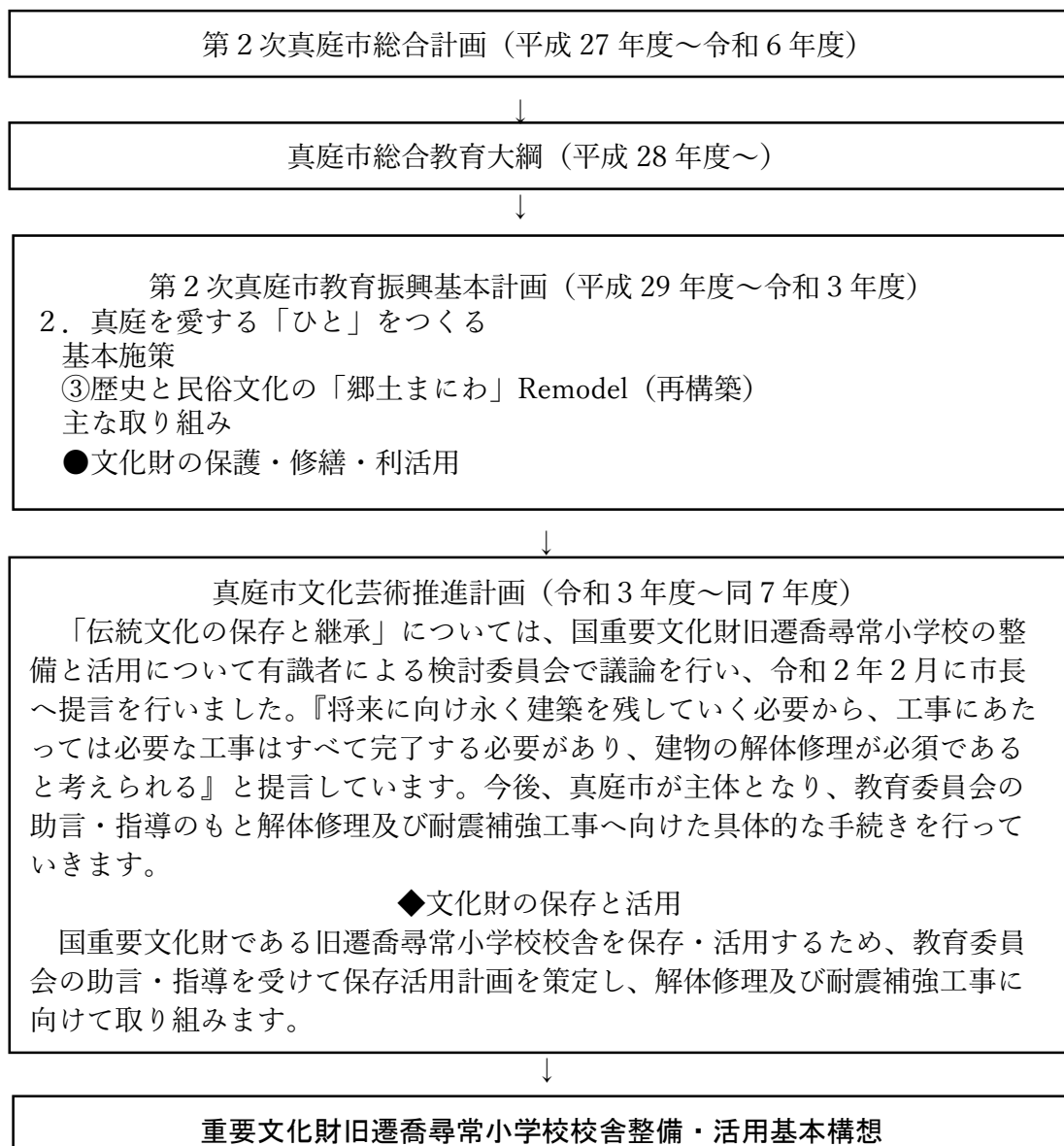
1 基本構想策定の目的

旧遷喬尋常小学校は、国の重要文化財に指定されている貴重な建築物であり、真庭市民が誇ることのできる歴史的資産です。この文化遺産は国民的財産として保存、活用していく必要があります。

この基本構想は、築114年を経た重要文化財旧遷喬尋常小学校校舎（以下「旧遷喬尋常小学校校舎」という。）を、次の世代へと伝えていくために必要な整備と、地域活性化に資する活用を図っていくための保存活用に関する基本的方針を定めるものです。

2 基本構想の位置付け

『第2次真庭市総合計画』の基本理念である、「誇り」「許容性」「持続可能性」「安全安心」「教育」に則って、真庭市の歴史文化資源である旧遷喬尋常小学校校舎を守り活かし、ふるさとの歴史文化を育むまちづくりを推進するとともに、その魅力を積極的に発信することにより、「多彩な真庭の豊かな生活～真庭ライフスタイル」の実現につなげていくことを目指します。



3 検討の過程

真庭市では、国重要文化財である旧遷喬尋常小学校校舎についての整備・利活用に係る構想を策定するため、平成30年(2018)に学識経験者や利活用実践者など12人からなる「真庭市旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用検討委員会(以下、「検討委員会」)」を設置しました。この校舎を国民的財産として保存し、なおかつ活用していくにはどうした方法があるかを、2か年にわたり計7回の会議と2回の市民ワークショップを通して議論を交わし、令和2年(2020)2月に『旧遷喬尋常小学校の整備・活用に係る提言書』としてまとめ、市長に提出しました。

その提言をもとに『重要文化財旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用基本構想』の策定に至りました。

4 検討委員会から構想までの流れ

○保存活用にに向けた経過

平成30年	4月17日	第1回検討委員会(整備・活用に対する考え方を確認)
	6月21日	小学校旧校舎利活用先進地視察(愛媛県西予市、旧開明学校)
	7月31日	第2回検討委員会(活用の目的と現状を確認、活用例を検討)
	10月4、5日	近代洋風建築利活用先進地視察(北海道札幌市、豊平館)
	10月18日	第3回検討委員会(視察報告、活用方針を確認、整備改修の方針を確認)
	11月4日	「ハンドメイドマルシェ」来場者への校舎活用・保存アンケート
平成31年	1月17日	第4回検討委員会(アンケート結果を確認、提言素案を確認)
令和元年	5月30日	第5回検討委員会(構造補強案を提示、市観光戦略を説明、提言素案を確認)
	6月27日	小学校校舎利活用について識者への面談、活用視察(東京都)
	7月8日	活用と保存を考えるワークショップ(第1回)開催
	7月30日	第6回検討委員会(耐震対策修繕方法を検討、提言素案を確認、活用の方向を検討)
	9月26日	活用と保存を考えるワークショップ(第2回)開催
	11月14日	第7回検討委員会(ワークショップの内容を確認、提言書案を検討)
令和2年	2月25日	「旧遷喬尋常小学校校舎の整備・活用に係る提言書」提出
	3月20日	パンフレット「KYUSEN」製作・発行
	6月13日～	建築模型・建築パネル展「江川式、擬洋風建築～江川三郎八がつくった岡山・福島の風景」開会(～9月29日)
	9月26日	講演会「江川式建築と関わって30年」開催
令和4年	3月22日	「重要文化財旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用基本構想」策定

○修理・防災施設整備の経過

平成31年	3月8日	文化庁技官現地指導(破損状況、修理手続き等)
-------	------	------------------------

旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用検討委員会の構成

委 員

	氏 名	所 属 等
委員 長	江面 嗣人	岡山理科大学工学部建築学科教授
副委員長	奥山 仁	落合小学校校長
委 員	腰原 幹雄	東京大学生産技術研究所教授
委 員	山崎真由美	岡山ヘリテージマネージャー機構美作地域会
委 員	井上 恭介	株式会社 NHK エンタープライズ
委 員	山崎樹一郎	シネマニワ代表、映像作家
委 員	清水 慎一	清水塾 塾長
委 員	眞柴 幸子	(一社) 真庭観光局地域マネジメント部マネージャー
委 員	岡本 康治	まにワッショイ代表
委 員	遠藤 健治	美作大学生活科学部食物学科教授
委 員	森上 知洋	元真庭市文化財保護審議会委員
委 員	吉永 忠洋	真庭市副市長

順不同

オブザーバー

	氏 名	所 属 等
第 2 回	芥川 英祐	新東住建工業 (株) 文化財建造物木工技能者
第 1 回 第 5 回 第 6 回	横山 定	岡山県文化財課参事

順不同



第 1 回検討委員会の様子 (旧遷喬尋常小学校講堂)

第2章 旧遷喬尋常小学校校舎の現状と課題

1 旧遷喬尋常小学校校舎の現状

(1) 旧遷喬尋常小学校校舎の概要

旧遷喬尋常小学校は、岡山県中央部を南北に流れる旭川上流域の真庭市久世の市街地にあり、明治7年(1874)8月2日に創設された遷喬小学校を始めとします。当初の校舎は、江戸時代に津山藩が年貢米を保管していた御蔵を利用したと伝わります。その後、就学児童数が増加し、教室並びに運動場とも狭小となったため、同36年に久世町鍋屋地内での新校舎建築が計画され、同38年7月に着工、同40年7月に竣工しました。設計は岡山県工師の江川三郎八、工事監督は中村錠太郎、施工は本校舎が津山町の高橋岩吉、裏校舎が地元の山根近治郎です。以来、大きな改造もなく、校舎として利用されました。昭和63年(1988)には、管理教室棟中央部が町指定文化財となり、平成2年(1990)に両袖部を追加指定しています。

同2年9月に遷喬小学校が新築移転したあと、旧校舎に隣接して町立の文化施設「久世エスパスセンター」が建設され、同年4月から旧校舎を含む一帯が久世エスパスランドとして、イベントなど多目的に利用されることになりました。同11年に、旧校舎が国重要文化財に指定され、現在に至っています。

旧遷喬尋常小学校校舎の概要

名 称	旧遷喬尋常小学校校舎
員 数	1棟
構造及び規模	木造、建築面積601.2㎡、2階建、スレート及び棧瓦葺、背面出入口2か所付属
所 有 者	真 庭 市
所有者住所	真庭市久世2927番地2
所 在 地	岡山県真庭市鍋屋17番地1
指 定 番 号	第02364号
指 定 区 分	重要文化財(建造物)
指 定 年 月 日	平成11年5月13日
指 定 基 準	(三)歴史的価値の高いもの

表1 旧遷喬尋常小学校校舎の沿革・変遷

和暦	西暦	出来事
明治7年	1874	久世村の津山藩御蔵を校舎として「遷喬小学校」を開校。校名は、山田方谷が揮毫した中国の古典「詩経」の一節「出自幽谷、遷于喬木」から「遷喬」と名付ける
明治36年	1903	増加する生徒数に対応するため、校舎の移転新築を久世町議会で議決
明治38年	1905	鍋屋地区で校舎新築に着工
明治40年	1907	校舎が完成し、鍋屋地区に移転する
大正12年	1923	校舎正面の高瀬舟のデザインを新たな校章に改める

昭和 16 年	1941	遷喬国民学校に改称
昭和 22 年	1947	遷喬小学校に改称
昭和 27 年	1952	校舎を塗装
昭和 37 年	1962	教室の照度不足のため天井を塗装
昭和 47 年	1972	危険校舎として認定
昭和 58 年	1983	中央棟を天然スレートに葺き替える
昭和 60 年	1985	両袖棟をセメント瓦に葺き替える
昭和 63 年	1988	校舎の中央部が久世町指定文化財となる
平成 2 年	1990	学校が久世地区に新築・移転し、校舎の役目を終える 校舎の両袖部が久世町指定文化財に追加指定となる
平成 3 年	1991	文部省より「本校舎両袖教室等も保存してよい」との回答がある
平成 5 年	1993	校舎映像が登場する映画「大病人」（伊丹十三監督作品）上映
平成 6 年	1994	校舎外壁を塗装（全体的にケレン）。校舎正面の校章のデザインを創建当時の高瀬舟に復する
平成 11 年	1999	国指定重要文化財となる
平成 16 年	2004	ロケ地となったドラマ「犬神家の一族～だれも知らない金田一耕助～」（稲垣吾郎主演、フジテレビ）放送
平成 17 年	2005	ロケ地となった映画「ALWAYS 三丁目の夕日」（山崎貴監督作品）上映、ドラマ「火垂の墓－ほたるのはか－」（日本テレビ）放送
平成 19 年	2007	給食体験事業が始まる ロケ地となった映画「ALWAYS 続・三丁目の夕日」（山崎貴監督作品）上映 校舎外壁を塗装（浮きが確認できる箇所をケレン） 校舎落成百年記念展・記念式典を開催
平成 21 年	2009	ロケ地となったドラマ「ヒロシマ・少女たちの日記帳」（NHK）放映
平成 22 年	2010	ロケ地となった TBS 開局 60 周年記念ドラマ「JAPANESE AMERICANS」（TBS）放映
平成 23 年	2011	ボランティアガイド活動開始 ロケ地となった朝の連続ドラマ「カーネーション」（NHK）放映
平成 25 年	2013	市民団体による「旧遷喬尋常小学校活用フォーラム」が開催される ロケ地となった朝の連続ドラマ「ごちそうさん」（NHK）放映
平成 27 年	2015	建築構造調査、床・屋根葺材・樋の修繕等を実施
令和元年	2019	ロケ地となったバラエティ番組「出川哲朗の充電させてもらえませんか？」（テレビ東京）放映



敷地平面図

(2) 旧遷喬尋常小学校校舎の価値

旧遷喬尋常小学校校舎は、木造二階建てで中央棟を大きく作り、東西両翼棟が対称型に連なる形です。屋根は元は特殊な和瓦スレート葺でしたが、現在は中央棟を天然スレート葺とし両翼棟の屋根はセメント葺瓦葺としています。各教室の広さや天井高、床高、窓面積などは、当時の小学校校舎の設計基準に基づき設計されています。基礎部分は煉瓦積とし、切石の土台を巡らします。平面は1階が中央部に玄関を構え、玄関口の東西に「事務室」及び「教室」、その北側には中廊下を隔てて「応接室」「宿直室」等を置いていました。両翼棟には北側に廊下を置いて二室ずつ教室を配し、両端部にはもとは児童の昇降口（現在は床を張り部屋に改修）及び2階への階段が取り付けます。2階は、中央棟に独特の折り上げ格天井を張った一室の広い講堂を設け、両翼棟は片廊下として二教室ずつ配し、両端には「唱歌室」及び「作法教室」を設けていました。

旧遷喬尋常小学校校舎は、岡山県中央部を南北に流れる旭川の上流、左右対称型の独特の意匠になる明治後期の学校建築で、比較的規模も大きく保存もよい状態です。わが国における学校建築の設計基準が確立した後の建築の代表遺構の一つで、中国地方における小学校建築の歴史を知るうえで価値が高いとされています。こうしたことが評価され、平成11年（1999）に国重要文化財に指定されました。

(3) 運営管理及び防火・防犯対策の状況

旧遷喬尋常小学校校舎は現在、真庭市久世エスパスセンター設置条例（平成18年条例第70号）に基づき、（公財）真庭エスパス文化振興財団を指定管理者として、日常管理を実施していま

